

2020年3月26日

博報堂 Pechat 開発チーム・博報堂こそだて家族研究所・LITALICO 発達ナビ

「ASD と子育て実態調査」結果発表

第一弾「ASD への理解ギャップ」編

株式会社博報堂（本社：東京都港区、代表取締役社長：水島正幸）の次世代育児アイテム Pechat 開発チームと博報堂こそだて家族研究所は、学習塾や障害児支援事業を行う株式会社 LITALICO（本社：東京都目黒区、代表取締役社長：長谷川敦弥）と共同で、ASD（Autism Spectrum Disorder=自閉症スペクトラム）※の診断や傾向のある子どもを育てる家庭の実態や、周囲の支援のあり方を把握するため、「ASD と子育て実態調査」を実施しました。今回は第一弾の調査結果として「ASD 理解ギャップ編」と題し、ASD の診断や傾向のある子どもを持つ保護者と典型発達の子※を持つ保護者の ASD に対する認知・理解の実態とそのギャップについてご報告いたします。

なお本日より、三者共同で ASD の実態や子育てのヒントを研究・発表する WEB サイト「教えて！はったつ博士」（<http://h-hakase.jp/>）を公開しましたので、調査結果とあわせてご活用ください。

〈調査概要：ASD と子育て実態調査①〉

調査手法：インターネット調査

調査エリア：全国

調査時期：2020年1月

調査対象者：20～60代男女（N=13,262）

- ASD と診断された 0～22 歳の同居子を持つ保護者（N=440）
- ASD の診断はないが、疑いがある（グレーゾーン）0～22 歳の同居子を持つ保護者（N=988）
- ASD 以外の発達障害の診断や疑いのある 0～22 歳の同居子を持つ保護者（N=523）
- ASD やその他の発達障害の診断や疑いのない（典型発達）0～22 歳の同居子を持つ保護者（N=11,311）

※ASD（自閉症スペクトラム）：「スペクトラム」と言われる通り、虹の帯のように境目なく連続しており、症状や特性は一人ひとり多様です。また、生活における困難さは個人の特性と周囲の人的・物的環境との相互作用によっておこるため「どこからどこまでが障害」と機械的に線引きできるものではありません。最近では、ニューロダイバーシティ（neurodiversity：自閉症スペクトラムなどの発達障害の特性は障害ではなく「ヒトの脳の神経伝達経路の多様性」とする考え方）も広がっています。

※「グレーゾーンの子」：医療機関での診断はないが、ASD の疑いがあると保護者が感じている子。

※「典型発達の子」：自閉症スペクトラムやその他の発達障害の疑い圏にいない子。NT（神経学的典型：neurotypical）という分類が由来。

〈調査結果のポイント〉

- 0～22 歳までの子の中で、「ASD と診断された子」は 2.3%（推計 60 万人）、「グレーゾーンの子※」は、5.4%（推計 138 万人）。合計すると、約 13 人に 1 人という割合に。
- ASD と診断された際の年齢は、2～3 歳が特に多く、全体の約 4 割を占める。
- 気づいたきっかけとして多いのは「発語の遅さ」や「医師・専門家の指摘」「パニックを起こす」など。
- ASD の名称認知は、「典型発達の子」の保護者でも約 8 割と高水準だが、詳細理解度では約 6%と低い。
- 「ASD と診断された子」の保護者の約半数は「世の中から正しく理解されていない」と感じている。
- ASD について「知る・学ぶ機会がほしい」と答えた人は、「グレーゾーンの子」を持つ保護者が 32.7%と比較的高め。
- ASD の特性に対する理解内容のギャップを分析すると、医学的な知識のほか、周囲の対応方法に関する知識を広めることの重要性がうかがえる。

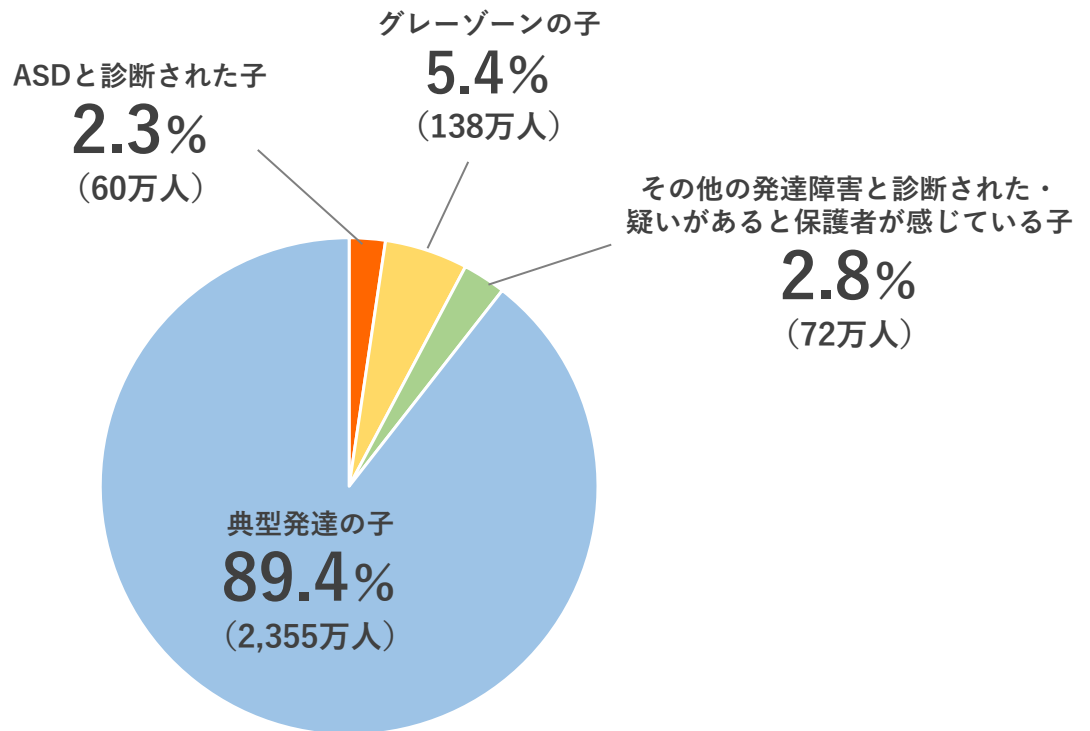
〈参考データ〉

【ASD と診断された子・グレーゾーンの子の割合】

■0～22 歳までの子の中で、「ASD と診断された子」は 2.3%（推計 60 万人）、「グレーゾーンの子」は 5.4%（推計 138 万人）で、合計すると約 13 人に 1 人という割合になります。

Q. あなたのお子様は、「ASD（自閉症スペクトラム）」と医療機関で診断されたことがありますか。

※ASD（自閉症スペクトラム）は、診断基準・名称の変遷により、診断を受けた時期によっては、広汎性発達障害・自閉症・アスペルガー症候群等の診断名がついていることもあります。



※カッコ内の数字は、国勢調査の人口数から拡大推計人数を算出

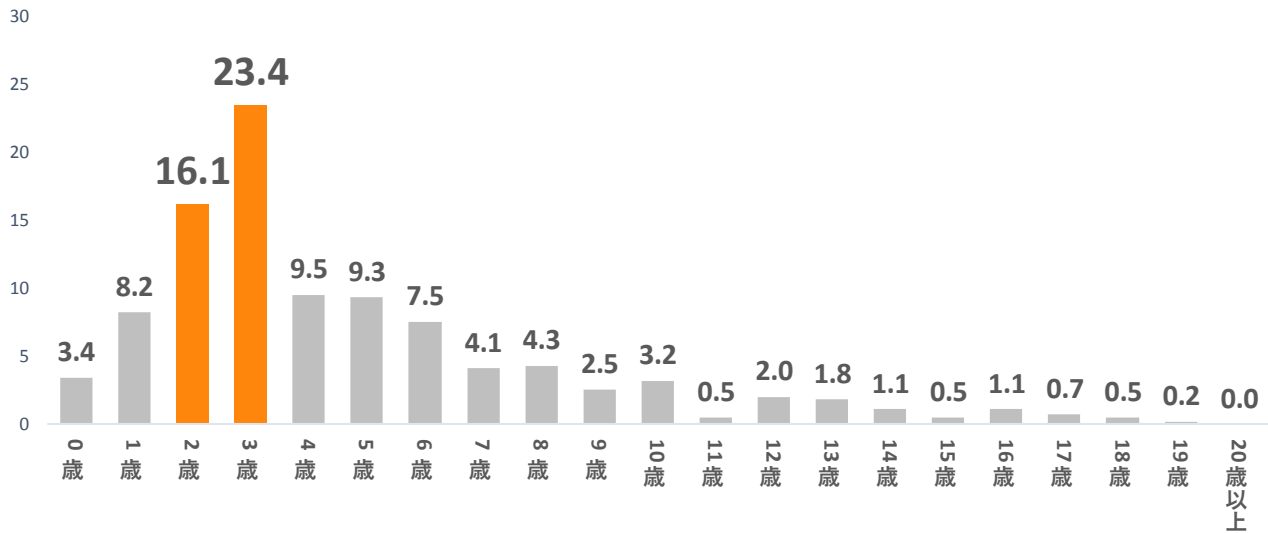
【ASDと診断された際の年齢／気づいたきっかけ】 ※ASDと診断された子を持つ保護者ベース

■ASDと診断された際の年齢は2～3歳が多くなっており、合計すると約4割を占めます。

Q. お子様が「ASD（自閉症スペクトラム）」と診断されたのは、お子様が何歳の時ですか。（SA）

(%)

ASDと診断を受けた際の子の年齢



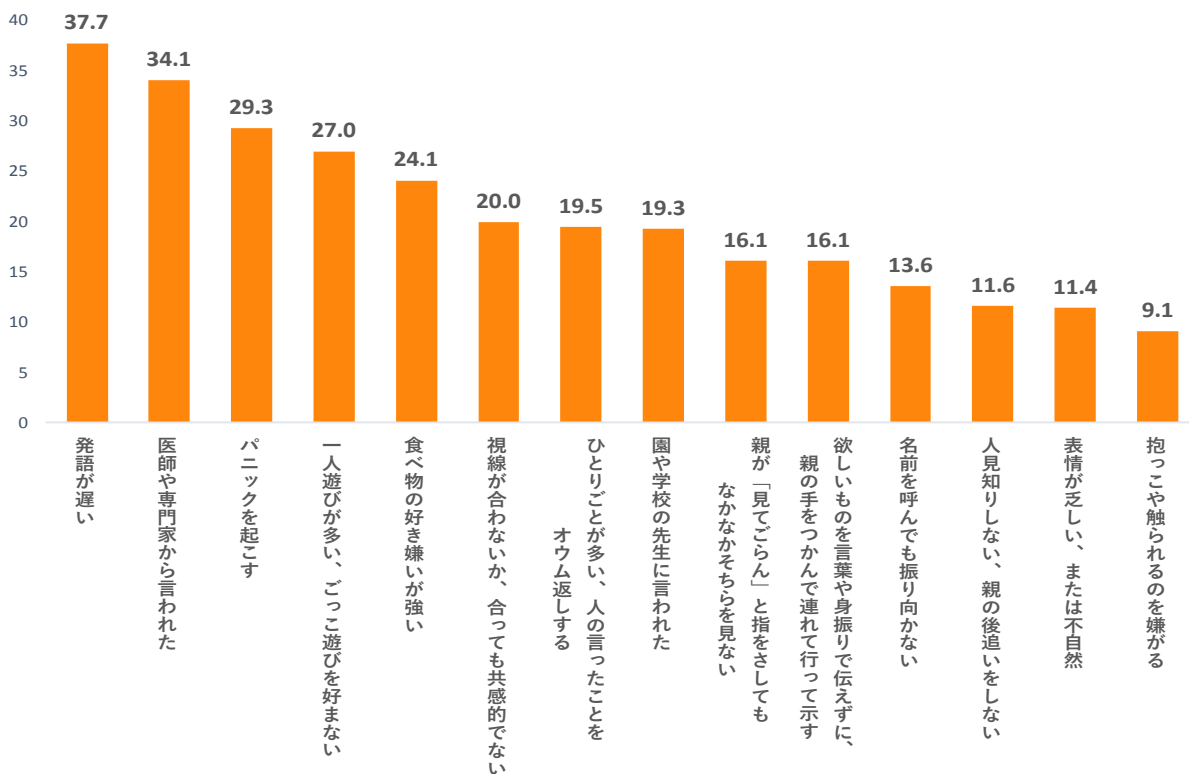
※ASDと診断された子を持つ保護者ベース（N=440）

■気づいた「きっかけ」として、「発語の遅さ」（37.7%）、「医師や専門家から言われた」（34.1%）、「パニックを起こす」（29.3%）などが上位に挙がりました。

Q. お子様が「ASD（自閉症スペクトラム）」ではないかと思ったのは、どのようなことがきっかけでしたか。（MA）

(%)

ASDに気づいたきっかけ



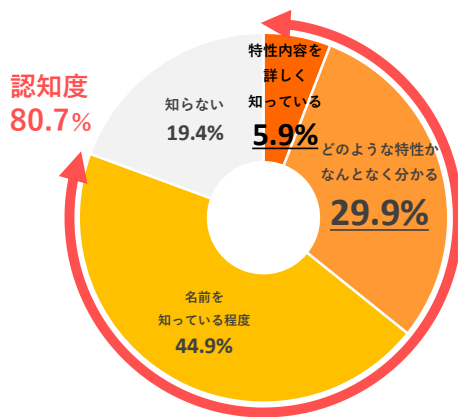
※ASDと診断された子を持つ保護者ベース（N=440）

【ASD の認知・理解状況】

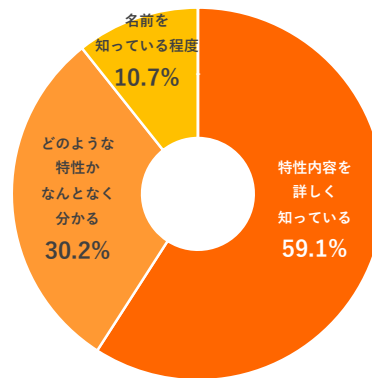
■「典型発達の子」の保護者の約8割（80.7%）が、「ASD という名前を知っている」と答える一方で、ASD が「どのような特性か何となくわかる」人は約3割（29.9%）、「特性の内容について詳しく知っている」人は約6%と、特性まで理解している人はまだ少ないことがわかりました。

Q. あなたは、ASD（自閉症スペクトラム）の特性についてどの程度ご存知ですか。それぞれの特性についてあてはまるものをひとつだけお知らせください。

ASD認知・理解率



典型発達の子を持つ保護者
(N = 11,311)



〈比較：ご参考〉
ASDの子を持つ保護者
(N = 440)

■さらに、「ASD と診断された子」の保護者の約半数（45.7%）は、「(ASD の特性について) 世の中から正しく理解されていない」と感じています。

Q. あなたは、ASD（自閉症スペクトラム）の特性について「世の中から正しく理解されていない」と感じますか。



※ASD と診断された子を持つ保護者ベース (N = 440)

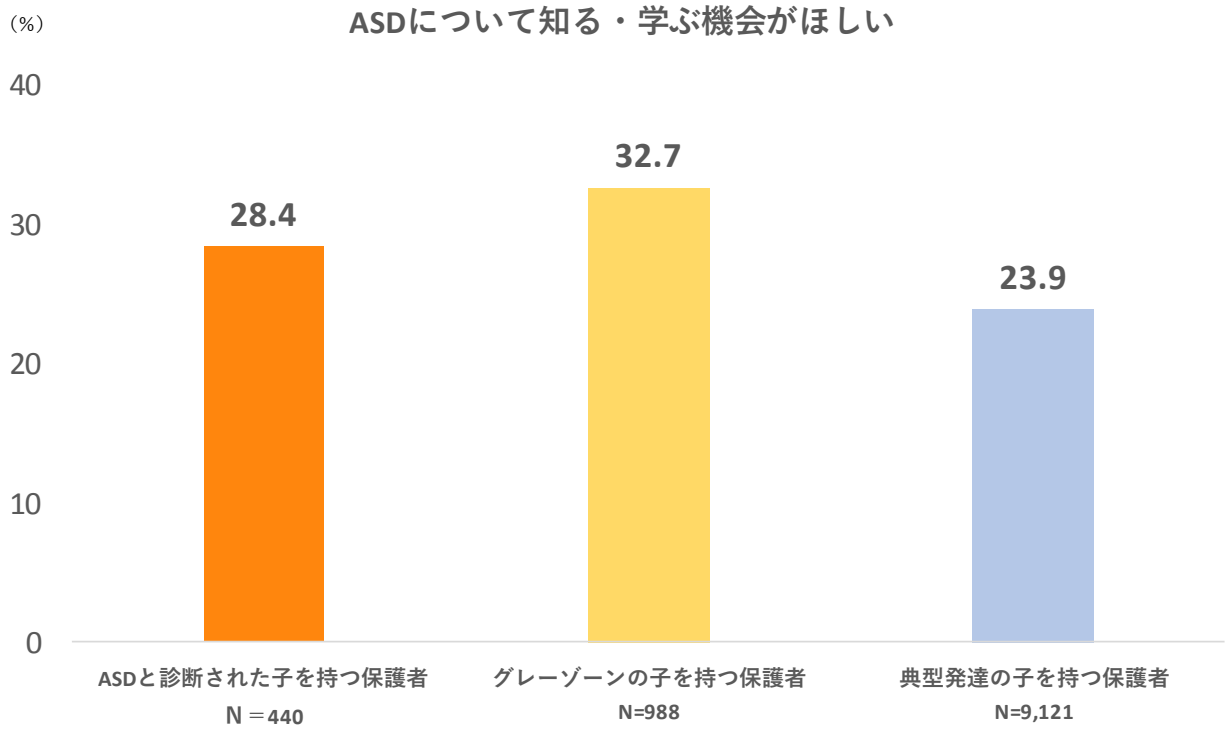
【ASD について知る・学ぶ機会へのニーズ】

■ASD について「知る・学ぶ機会がほしい」と答えた人は、「グレーゾーンの子」を持つ保護者が 32.7%と比較的高く、三者の中で最もニーズを感じていることがわかりました。

(「ASD と診断された子」の保護者で 28.4%、「典型発達の子」を持つ保護者で 23.9%。)

「グレーゾーンの子」の保護者は、医療機関の診断がないこともあり、情報が少なく周囲に相談できる人も少ないことも、「知る・学ぶ機会へのニーズ」を持つようになる理由のひとつと考えられます。

Q. あなたは、ASD (自閉症スペクトラム) について「知る・学ぶ機会がほしい」とお考えですか。



※ASD 認知者ベース

【ASDの特性に対する理解内容のギャップ】

■ASDの主な特性を挙げ、各内容について知っているか聞いたところ、以下のような内容が、「典型発達の子」の保護者に特に知られています。

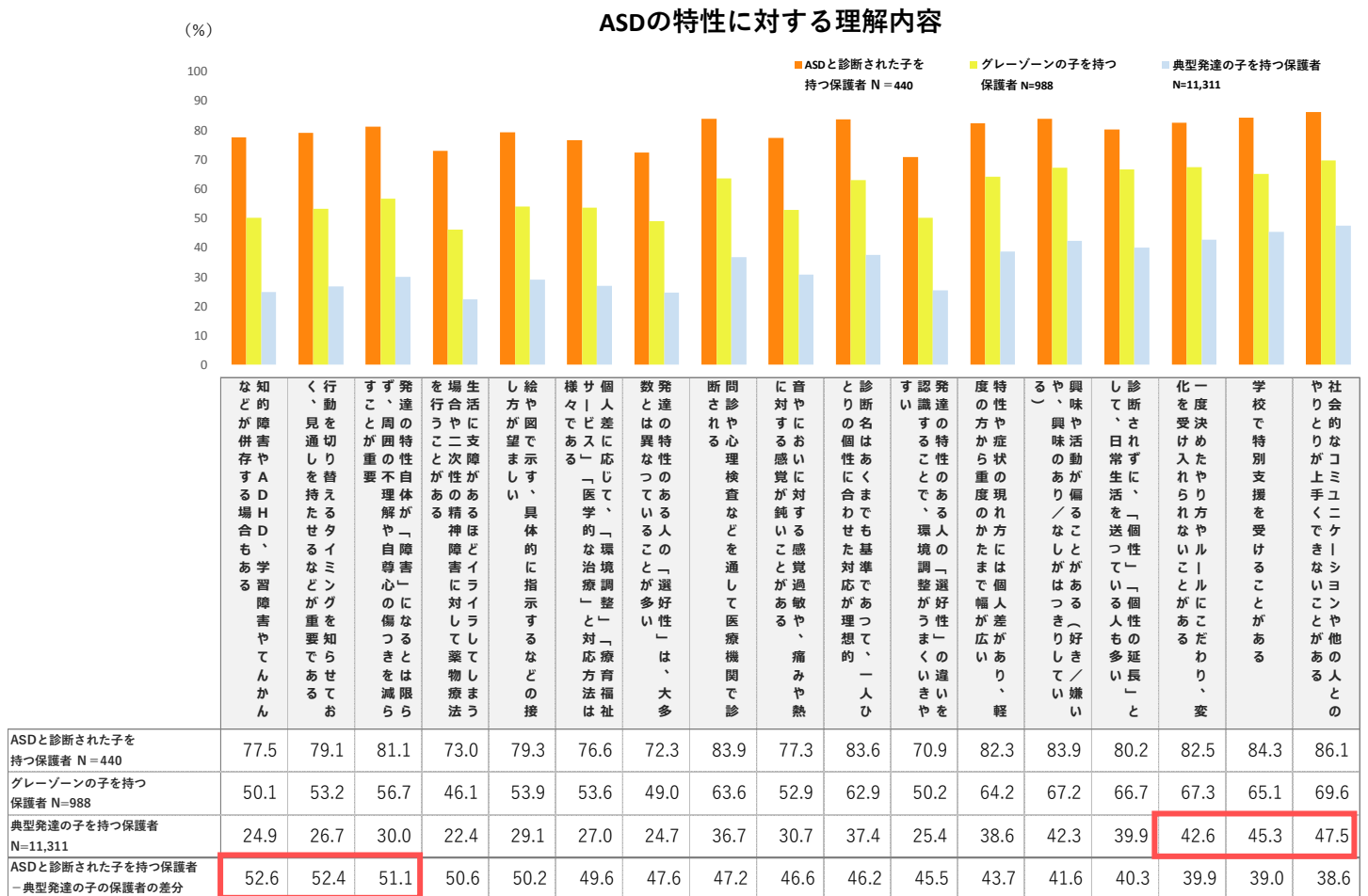
- ・「社会的なコミュニケーションや他の人とのやりとりが上手くできないことがある」(47.5%)
- ・「学校で特別支援を受けることがある」(45.3%)
- ・「一度決めたやり方やルールにこだわり、変化を受け入れられないことがある」(42.6%)

■「ASDと診断された子」の保護者と、「典型発達の子」の保護者の理解内容を比較すると、医学的な知識のほか、周囲の対応方法に関する知識を広めることの重要性もうかがえました。

具体的に、ギャップが大きかった上位3項目は、以下の通りです。

- ・「知的障害やADHD、学習障害やてんかんなどが併存する場合もある」(差分52.6ポイント：以下pt)
- ・「行動を切り替えるタイミングを知らせておく、見通しを持たせるなどが重要」(52.4pt)
- ・「発達の特性自体が『障害』になるとは限らず、周囲の不理解や自尊心の傷つきを減らすことが重要」(51.1pt)

Q. あなたは、「ASD(自閉症スペクトラム)」について、どのようなことをご存知ですか。以下に挙げる項目について、それぞれ「知っている」「知らない」とお答えください。



※「ASDと診断された子を持つ保護者」 - 「典型発達の子を持つ保護者」の差分降順にソート

※第二弾リリースは、4月上旬の発表予定です。次回は「ふかい！すごい！『好き』のパワー」と題し、ASDの子が持つ特性の強みについてレポートします。

【例】Q. 子どもの発達特性を強みに思うことがありますか？

⇒「ある」と回答したASDの子を持つ保護者：60.9%

※本調査は以下の専門家による監修のもと実施いたしました。

菅佐原 洋（すがさわら・ひろし）氏

公認心理師／臨床心理士／臨床発達心理士

LITALICO ジュニア チーフスーパーバイザー

発達心理学や応用行動分析学を専門とし、発達障害のある子どもへの直接支援、幼・小・中学校教職員への特別支援アドバイザー、教育センター等での研修などに20年以上携わっている。また大学教員として、臨床心理士育成などに関わっており、現職においても支援に関わる指導員への研修やスーパーバイザーの育成の統括を担当している。

【教えて！はったつ博士】

ASD（自閉症スペクトラム）の実態や子育てのヒントを研究・発表するWEBサイト。

実態調査のレポート発信や、ASDの子ども「こだわりエピソード」の紹介、ASDの子どもたちの「好き」に寄り添うコミュニケーションのヒント集などのコンテンツを、専門家やASDの子どもを持つママ・パパと一緒に研究しながら情報発信をしております。

本調査結果の詳細は、「教えて！はったつ博士」のサイトよりご覧いただけます。

<http://h-hakase.jp/>

SHARE



教えて！
はったつ博士

ASD(自閉症スペクトラム)のリアルと
子育てのヒント。

はったつ研究所に入る



【Pechat (ペチャット)】

博報堂のプロダクト・イノベーション・チーム monom (モノム) と、博報堂D Yグループの博報堂アイ・スタジオが共同で開発した、ボタン型スピーカー。Pechat をお気に入りのぬいぐるみに取り付け、専用のスマホアプリを操作することで、ぬいぐるみがしゃべっているように感じさせるほか、Pechat を通して、子供と内緒話をしたり、一緒に歌をうたったり、お昼寝を促したり、物語をきかせたりと、様々な使い方ができます。

<http://pechat.jp/>

【博報堂こそだて家族研究所】

晩産化・少子化、共働き世帯の増加、夫や祖父母の育児参加など、この10年で大きく変わってきた「子供のいる家族」について、研究・提案を行う博報堂の専門組織。1996年より活動していたBaBUプロジェクトを発展改組し、2012年10月設立。「妊娠期から小学生の子供を持つ家族」に関する専門知識を元に、調査、商品開発支援、広告などコミュニケーション支援、メディア開発、事業開発などを手掛けています。

<http://www.hakuhodo.co.jp/archives/announcement/24207>

【LITALICO 発達ナビ】

LITALICO 発達ナビは、子どもの発達が気になる保護者が、十分な子育ての情報や選択肢を得られるようになることを目的に2016年1月にオープン。子育て体験談やアドバイス、発達障害の基礎知識に関する情報を発信する「コラム」や、子育てに関する疑問や困っていることを質問し、全国の先輩ママ・パパから回答を得ることができる「Q&A」などのコンテンツを提供しています。

<https://h-navi.jp/>

【本件に関するお問い合わせ】

株式会社博報堂 広報室 玉・山野 TEL:03-6441-6161